

四万十市立竹島小学校 第5学年 道徳科学習指導案

令和3年 12月2日(木) 第5校時
児童数 11名(男子6名 女子5名)
指導者 山崎 真紀

1 主題名 法やきまりの意義【規則の尊重】小学校高C(12)

2 ねらいと教材

(1) ねらい

ひろしのことを思う気持ちと伴走者としての義務の間で揺れる「ぼく」の心について考えさせることを通して、法やきまりの意義を理解し、それらを進んで守る道徳的判断力を高める。

(2) 教材名 「ぼくは伴走者」 (小学生の道徳5 廣済堂 あかつき)

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容についての教師の捉え方

高学年の【規則の尊重】の内容項目は、「法やきまりの意義を理解した上で進んでそれらを守り、自他の権利を大切にし、義務を果たすこと」である。法やきまりは、社会や集団の一員である我々が安全にかつ安心して生活できるようにするために存在している。児童も、社会を構成する一人である。自分本位の考えや行動できまりを無視したり、権利ばかり主張して義務を果たそうとしなかったりすることは望ましい姿ではない。

きまりを守ることの大切さを理解していても、人は時に、「きまり」と「状況・心情」の狭間で揺れ動く時がある。きまりを無視したほうが、楽だと思える時もある。今後、児童が成長する過程でそのような場面に立たされることもあるであろう。自分の弱さを乗り越え、きまりを守ることを選択できる心情を育てていきたい。

(2) 児童のこれまでの学習状況や実態と教師の願い

本学級の児童は、学校のリーダーである高学年という立場を踏まえ、下級生の手本となれるよう少しずつ意識を高め、言動にも成長が感じられる時が増えてきた。学校のきまりも率先して守らなければいけないという思いももっている。児童は、学校にも多くのきまりがあることも、なぜそれらが存在するかということも知っている。道徳性に関する意識調査の「きまりを守っている」の肯定的回答は91%と高い結果であった。これまで、同様の指導内容を扱った道徳科の学習においても、きまりを尊重し、みんなが守ることで安全・安心な社会生活が送れることを考えることができていた。しかし、実際の生活の中では、きまりを窮屈に感じていたり、自分本位の考えできまりを守ることができなかつたりする姿が見られ、児童自身の評価と姿には隔たりが感じられる。

本時においては、様々な価値に揺れる心に共感しながら、きまりの意義について考えさせ、自分に課せられた義務をしっかりと果たそうとする心情を養いたい。

(3) 使用する教材の特徴や取り上げた意図及び具体的な活用方法

本教材は、親友のひろしが車椅子マラソンに挑戦することになり、努力を続けて完走を目指す彼を伴走者として支えることになった主人公「ぼく」の話である。大会に向けて二人三脚で練習を続けてきたが、大会当日、ひろしは坂道の途中で止まってしまう。伴走者として手を貸す義務があるが、それでは完走は果たされない。必死に後退しまいとするひろしの背中を見つめながら、「ぼく」はどうすべきか迷う姿で話が終わる「モラルジレンマ」と呼ばれる葛藤教材である。

本時では、心情円やネームプレートを活用し、「ぼく」の心の葛藤に共感し、その理由を考えさせる。立場の異なる意見を交流しながら、きまりを守ることについて考えさせ、実践へとつなげたい。

4 学習指導過程

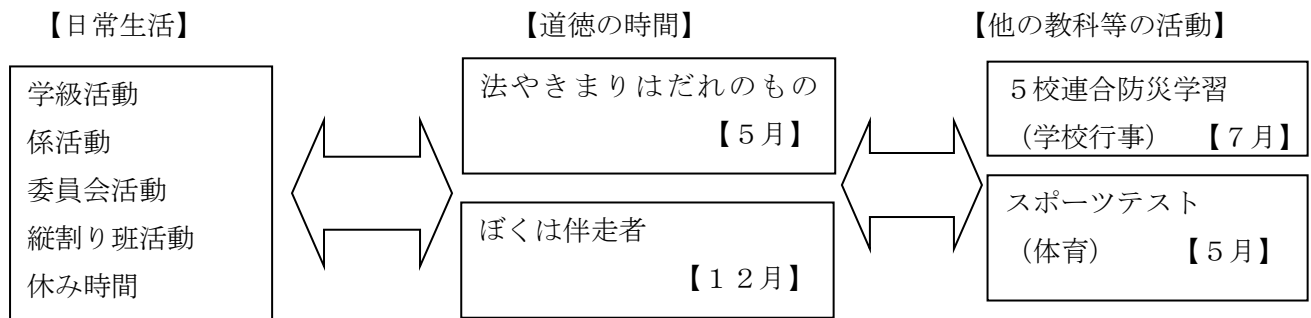
	学習活動	○主な発問◎中心発問◇問い返し発問 ・予想される児童の反応	指導上の留意点 評価の視点（評価方法）
導入	1. 教材への意識付けを図る。	○1984年のロサンゼルス・オリンピックのガブリエラ・アンデルセン選手の映像です。	○アンデルセン選手の競技姿を動画で紹介し、題材への意識付けを図る。
展開	2. 教材を読んで話し合う。 (1) 伴走者を引き受けた「ぼく」の思いについて考える。 (2) ひろしの背中を見つめながら迷っている「ぼく」の葛藤について考える。	○教材CDを視聴する。 ○「ぼく」はどうしてひろしの伴走者を引き受けたのでしょうか。 ・友達にお願いされたから。 ・ひろしの挑戦を助けたいと思ったから。 ◎あなたが「ぼく」なら、この後、どうしますか？ ・完走させてあげたいと思うけど、危ないことも分かる。どうしたらいいのか分からない。 ・決められない。でも、けがをさせたらずっと後悔しそう。 ・ここまで、がんばってきたことを知っているから手を貸すことができづらい。 ・手を貸す。失格になるけど、このままでは、けがをしてしまうから危ない。 ◇手を貸すと、失格になってしまうよ。それでも、手を貸しますか？ ・ひろしの安全が一番大切だと思う。 ・大会のきまりになっているから、守らないといけないと思う。	○あらすじや人物・状況をおさえる。 ○ひろしの伴走者を引き受けた「ぼく」の思いを共感的にとらえさせる。 ○何と何で迷っているのか明確にする。 ○自分の考えを、心情円を用いて表させる。一色で表すことは難しく、どちらかと言えば、この思いが強いという意見を取り上げ、意見の幅を広げる。 ○自分の考えを、ワークシートに書かせる。 ○心情円を基に、自分の考えに近い位置にネームプレートを貼らせる。 自「ぼく」の葛藤する心に共感し、きまりの意義を理解し、それらを進んで守ることについて、自分自身との関わりで考えている。 (ワークシート・発言)

		○友達と交流を終えて、心情円をもう一度動かしてみよう。前と変わった人はいますか。	多 「ぼく」が取るべき行動を友達と話し合う中で、様々な意見を聞き、考えている。 (ワークシート・発言)
終末	4. ワークシートに振り返りを書く。	○今日の学習で、自分が考えたことや友達の意見を聞いて考えたことを書きましょう。	○個々の振り返りを全体で共有する。

5 評価の視点 (評価方法)

- 自** 「道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか」
 ・「ぼく」の葛藤する心に共感し、きまりの意義を理解し、それらを進んで守ることについて、自分自身との関わりで考えている。(ワークシート・発言)
- 多** 「一方的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させているか」
 ・「ぼく」が取るべき行動を友達と話し合う中で、様々な意見を聞き、考えている。(ワークシート・発言)

6 体験活動や他教科等との関連



7 板書計画

きまりを守ることで安全を守ることができる

手を貸さない
きまりを守らない

○○○○○

手を貸す
きまりを守る

伴走者のきまり
走者の体に危険や無理が生じたら、必ず手を貸す

12 / 2
 ぼくは伴走者
 ○ひろしの車いすマラソンの伴走者
 ・友達にたのまれたから。
 ・いっしょにがんばりたいと思ったから。

○ 心情円 □ ネームプレート